



marantz®

プリメインアンプ
PM7005

取扱説明書

目次

使用上のご注意	4
携帯電話使用時のご注意	4
お手入れについて	4
結露(つゆつき)について	4
付属品	5
乾電池の入れかた	6
リモコンの使いかた	6
特長	7
高音質	7
多彩な機能	8
簡単操作	8
各部の名前	9
フロントパネル	9
リアパネル	12
リモコン	14

接続のしかた

スピーカーを接続する	20
スピーカー接続	21
再生機器を接続する	22
録音機器を接続する	23
デジタル音声出力端子付きの機器を接続する	24
パソコンまたは Mac と接続する	25
リモートコントロール端子付きの機器を接続する	26
リモコンの操作をしやすくする	26
マランツ製オーディオ機器をリモート接続する	26
電源コードを接続する	27

再生のしかた

電源を入れる	29
スピーカー出力をオンにする	30
入力ソースを選ぶ	30
音量を調節する	30
一時的に音を消す(ミュートィング)	30
音質を調節する	30
CD を再生する	31
パソコンと接続して再生する (USB-DAC)	32
デジタル機器と接続して再生する (Coaxial/Optical)	39
録音する	39

設定のしかた

オートスタンバイモードを設定する	40
オートスタンバイモードをオフにする	40
オートスタンバイモードをオンにする	40

困ったときは

こんなときの解決方法	42
故障かな?と思ったら	43
保証と修理について	49

付録

D/A コンバーターについて	51
用語の解説	51
主な仕様	52
索引	55

使用上のご注意

携帯電話使用時のご注意

本機の近くで携帯電話をご使用になると、雑音が入る場合があります。携帯電話は本機から離れた位置で使用してください。

お手入れについて

- キャビネットや操作パネル部分の汚れは、やわらかい布で軽く拭き取ってください。化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。
- ベンジンやシンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると、変質や変色の原因になりますので使用しないでください。

結露(つゆつき)について

本機を寒いところから急に暖かいところに移動させたり、本機を設置した部屋の温度を暖房などで急に上げたりすると、内部(動作部)に水滴が付くことがあります(結露)。結露したまま本機を使用すると、正常に動作せず、故障の原因となることがあります。結露した場合は、本機の電源を切ったまま 1~2 時間放置してから使用してください。

ステレオ音のエチケット






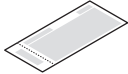

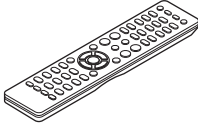

音のエチケット

- 隣近所への配慮(おもいやり)を十分にいたしましょう。
- 特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。

お買い上げいただきありがとうございます。
本機をご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに大切に保管してください。

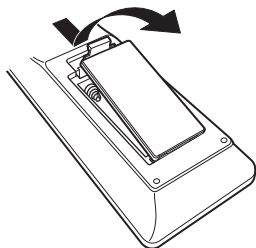
付属品

ご使用になる前にご確認ください。

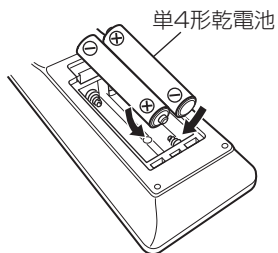
 かんたんスタートガイド	 取扱説明書(本書)	 安全にお使いいただくために	 保証書
 電源コード【本機専用】	 リモコン(RC003PMSA)	 単4形乾電池(2本)	

乾電池の入れかた

- 1 裏ぶたを矢印の方向へ押し上げて取り外す。



- 2 乾電池(2本)を乾電池収納部の表示に合わせて正しく入れる。



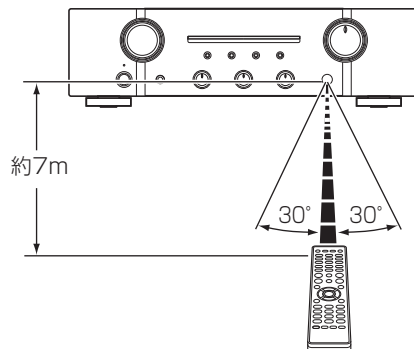
- 3 裏ぶたを元どおりにする。

ご注意

- 破損・液漏れの恐れがありますので、
 - 新しい乾電池と使用済みの乾電池を混ぜて使用しないでください。
 - 違う種類の乾電池を混ぜて使用しないでください。
- リモコンを長期間使用しないときは、乾電池を取り出してください。
- 万一、乾電池の液漏れがおこったときは、乾電池収納部内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。

リモコンの使いかた

リモコンはリモコン受光部に向けて使用してください。



特長

高音質

• フルディスクリット・電流帰還型アンプ

本機のプリアンプとパワーアンプにはディスクリット部品で構成されたマランツ独自の電流帰還型回路を採用しています。上級機で培った最新の技術を取り入れたハイスピードアンプです。

• HDAM®SA3

HDAM®SA3 は、電流帰還型アンプの要となるアンプ回路です。最重要部である電圧から電流変換部に搭載し、回路の安定度を向上させ、ハイスピードサウンドを支えます。

• ショート・パワー・ライン・レイアウト

瞬時電流供給能力を向上させるために電源回路とパワーアンプの出力段を一体化したショートパワーラインレイアウトを採用しています。

このレイアウトは大電流ラインを最短で結び、左右対称になるよう配置しています。

• CD ダイレクト・バッファー・アンプ

CD 入力端子には端子の直近に CD 専用の入力バッファーアンプを搭載しています。このバッファーアンプはディスクリット構成の高速バッファーアンプで、左右チャンネルの干渉を防ぎ信号を忠実にプリアンプに伝送します。

• 大容量ブロック電解コンデンサ

パワーアンプ用電源回路に上級機の思想を採り入れ開発した 15000 μ F の大容量コンデンサを搭載しています。

多彩な機能

• DSD ファイルの再生に対応した USB-DAC 機能を搭載

DSD 信号や PCM 信号の 192kHz/24bit までサポートした USB-DAC 機能を搭載。パソコンに保存している PCM 信号や DSD 信号の音楽ファイルを USB 接続で本機に入力すると、本機に搭載している D/A コンバーターで、高音質な音楽再生をお楽しみいただけます。

- ご使用になる前にパソコンに専用ドライバーソフトをインストールしてください。「パソコンへドライバーソフトをインストールする方法」(P.32 ページ)
- パソコンの再生プレーヤーソフトは、市販品またはダウンロード可能なお好みのプレーヤーソフトをご使用ください。

• D/A コンバーターとして使用可能

外部機器やパソコンから本機に入力されるデジタル音声信号を本機の D/A コンバーターでアナログ変換して出力できます。

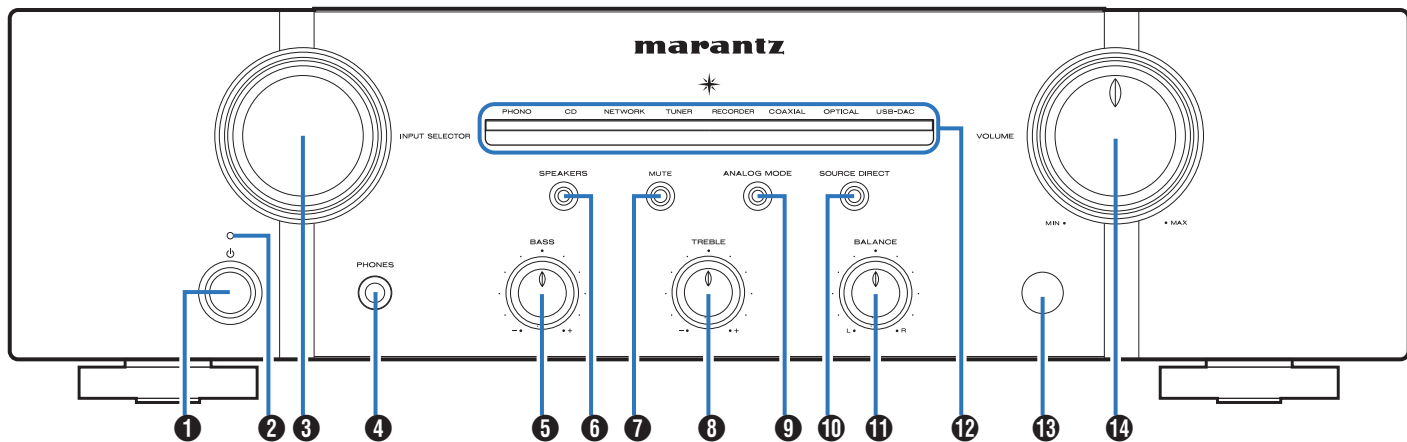
簡単操作

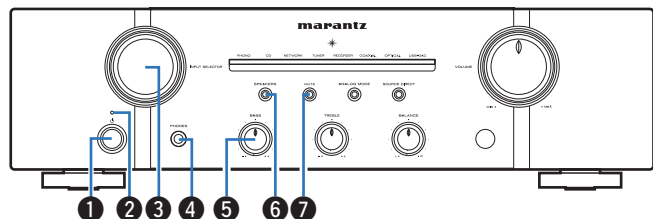
• CD プレーヤーやネットワークオーディオプレーヤー対応のリモコン

本機に付属しているリモコンは、本機の外にマランツ製 CD プレーヤーやネットワークオーディオプレーヤーも操作できます。(P.15 ページ)

各部の名前

フロントパネル





① 電源ボタン(⏻)

本機の電源をオン/オフします。(☞ 29 ページ)

② 電源表示

電源の状態によって、次のように点灯します。

- 電源オン時: 消灯
- スタンバイ時: 赤色
- 電源オフ時: 消灯
- 保護回路動作時: 赤色(点滅)

③ 入力ソース切り替えつまみ(INPUT SELECTOR)

入力ソースを切り替えます。(☞ 30 ページ)

④ ヘッドホン端子(PHONES)

ヘッドホンを接続します。

ヘッドホンをご使用になるときは、スピーカーの出力をオフにしてください。(☞ 30 ページ)

ご注意

ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。

⑤ 低音調節つまみ(BASS)

低音の音量を調節します。(☞ 30 ページ)

⑥ スピーカー出力ボタン/表示(SPEAKERS)

スピーカー出力をオン/オフします。(☞ 30 ページ)

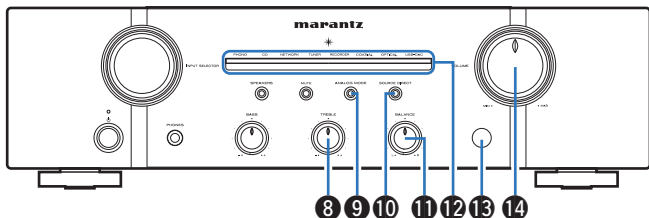
本機の状態によって、次のように変わります。

- スピーカー出力オン時: 青色
- スピーカー出力オフ時: 消灯

⑦ ミュートボタン/表示(MUTE)

消音をオン/オフします。(☞ 30 ページ)

- ミュートオン時: 赤色
- ミュートオフ時: 消灯



⑧ 高音調節つまみ (TREBLE)

高音の音量を調節します。(P.30 ページ)

⑨ アナログモードボタン/表示 (ANALOG MODE)

アナログモードをオン/オフします。(P.31 ページ)

- アナログモードオン時: 青色
- アナログモードオフ時: 消灯

⑩ ソースダイレクトボタン/表示 (SOURCE DIRECT)

ソースダイレクトモードをオン/オフします。

(P.31 ページ)

- ソースダイレクトモードオン時: 青色
- ソースダイレクトモードオフ時: 消灯

⑪ バランス調節つまみ (BALANCE)

左右のスピーカーから出力する音量のバランスを調節します。
(P.30 ページ)

⑫ 入力表示

(P.30 ページ)

⑬ リモコン受光部

リモコンからの信号を受信します。(P.6 ページ)

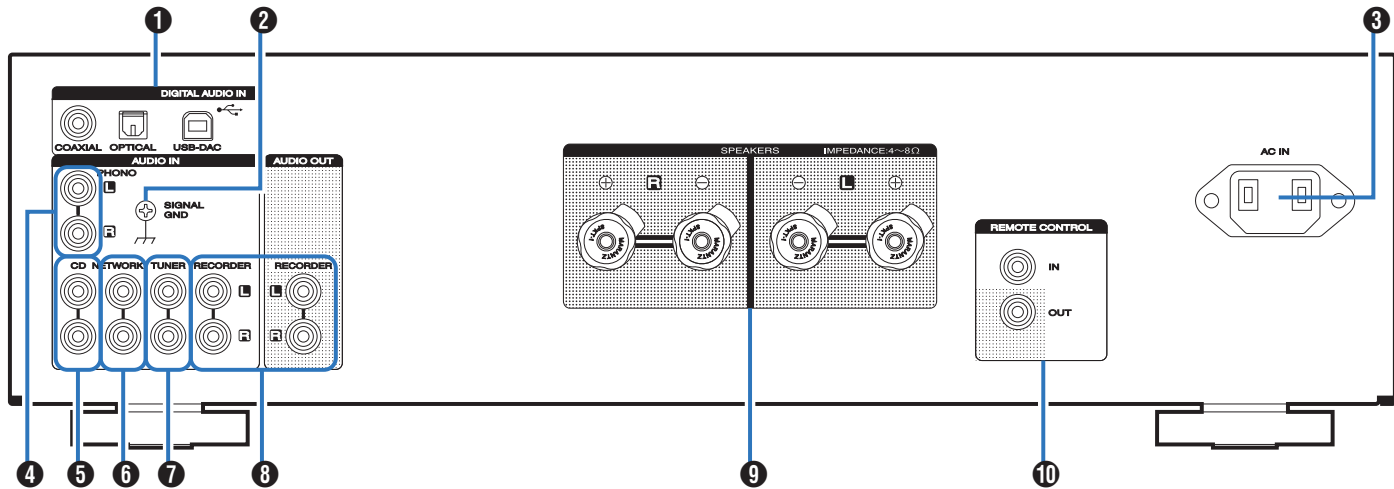
⑭ 音量調節つまみ (VOLUME)

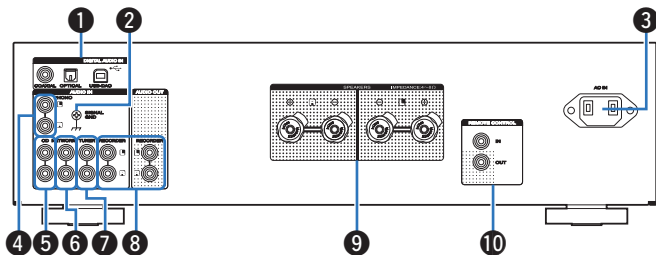
音量を調節します。(P.30 ページ)



⑤、⑧、⑪ は、⑩ が消灯(ソースダイレクトモードがオフ)のときに調節できます。

リアパネル

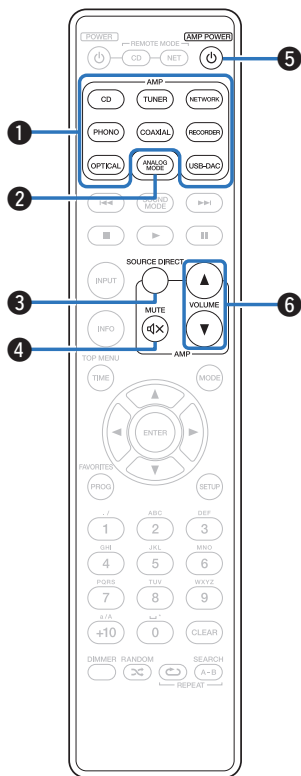




- ① デジタル音声入力端子(DIGITAL AUDIO IN)
デジタル音声出力端子付きの機器やパソコンを接続します。
([P.24](#) ページ)
- ② アース端子(SIGNAL GND)
レコードプレーヤーを接続します。([P.22](#) ページ)
- ③ AC インレット(AC IN)
電源コードを接続します。([P.27](#) ページ)
- ④ レコードプレーヤー入力端子(PHONO)
レコードプレーヤーを接続します。([P.22](#) ページ)
- ⑤ CD プレーヤー入力端子
CD プレーヤーを接続します。([P.22](#) ページ)

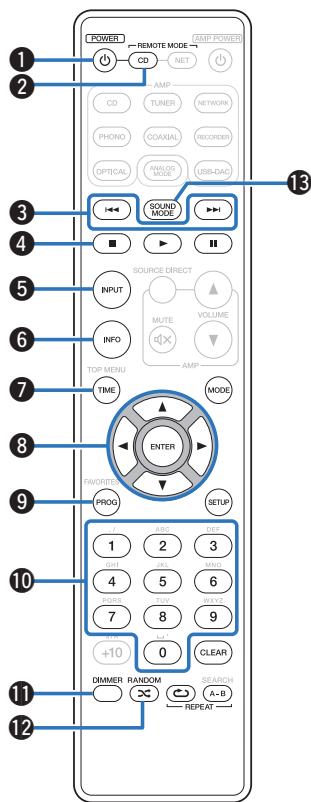
- ⑥ ネットワークオーディオプレーヤー入力端子(NETWORK)
ネットワークオーディオプレーヤーを接続します。
([P.22](#) ページ)
- ⑦ チューナー入力端子(TUNER)
チューナーを接続します。([P.22](#) ページ)
- ⑧ レコーダー入出力端子(RECORDER)
録音機器の入出力端子を接続します。([P.23](#) ページ)
- ⑨ スピーカー端子(SPEAKERS)
スピーカーを接続します。([P.20](#) ページ)
- ⑩ リモートコントロール入出力端子(REMOTE CONTROL)
リモートコントロール機能に対応しているマランツ製オーディオ機器を接続します。([P.26](#) ページ)

リモコン



■ アンプの操作

- 1 入力ソース切り替えボタン**
入力ソースを切り替えます。(P.30 ページ)
- 2 アナログモードボタン (ANALOG MODE)**
アナログモードをオン/オフします。(P.31 ページ)
- 3 ソースダイレクトボタン (SOURCE DIRECT)**
ソースダイレクトモードをオン/オフします。(P.31 ページ)
- 4 ミュートボタン (MUTE M)**
消音します。(P.30 ページ)
- 5 電源ボタン (AMP POWER P)**
本機の電源をオン/オフ(スタンバイ)します。(P.29 ページ)
- 6 音量調節ボタン (VOLUME ▲▼)**
音量を調節します。(P.30 ページ)

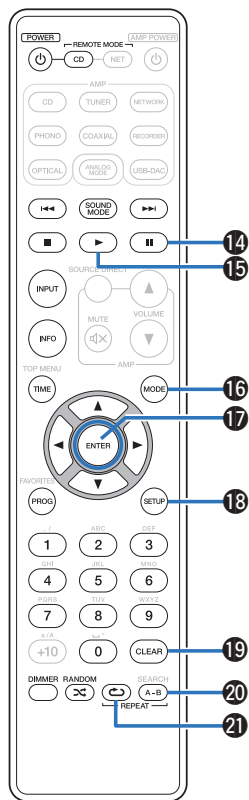


■ CD プレーヤーの操作

付属のリモコンは本機だけでなく、マランツ製 CD プレーヤーも操作できます。マランツ製 CD プレーヤーを操作するときは、リモートモード選択ボタン(REMOTE MODE CD)を押して、リモコンを CD プレーヤーの操作モードに切り替えます。

- リモートモード選択ボタン(REMOTE MODE CD)ボタンが約 2 秒間点灯します。

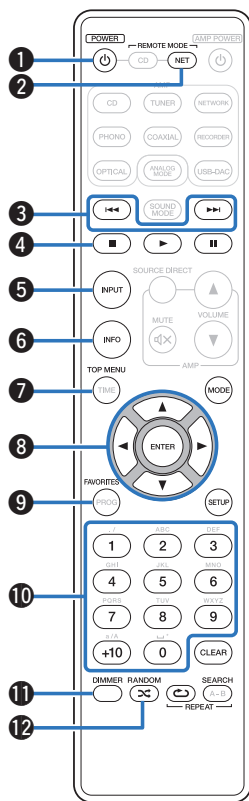
- ① 電源ボタン(POWER ϕ)
- ② リモートモード選択ボタン(REMOTE MODE CD)
- ③ スキップボタン(\lll, \ggg)
- ④ 停止ボタン(\blacksquare)
- ⑤ 入力ソース切り替えボタン(INPUT)
- ⑥ インフォメーションボタン(INFO)
- ⑦ 時間表示ボタン(TIME)
- ⑧ カーソルボタン($\Delta \nabla \triangleleft \triangleright$)
- ⑨ プログラムボタン(PROG)
- ⑩ 数字ボタン(0~9)
- ⑪ 明るさ調節ボタン(DIMMER)
- ⑫ ランダムボタン(RANDOM ∞)
- ⑬ サウンドモードボタン(SOUND MODE)



- ⑭ 一時停止ボタン(⏸)
- ⑮ 再生ボタン(▶)
- ⑯ 再生モード切り替えボタン(MODE)
- ⑰ エンターボタン(ENTER)
- ⑱ セットアップボタン(SETUP)
- ⑲ クリアボタン(CLEAR)
- ⑳ A-B 間リピートボタン(REPEAT A-B)
- ㉑ リピートボタン(REPEAT ↺)



リモコンの操作モードが CD プレーヤーのときも、アンプの操作ボタンでアンプを操作できます。

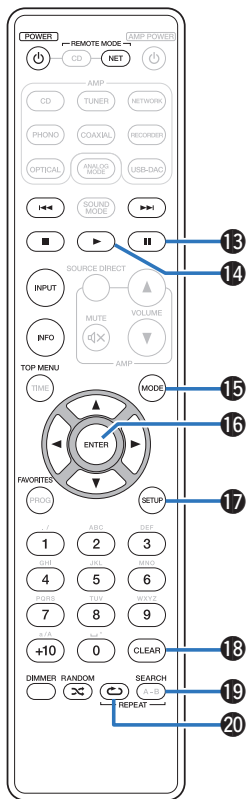


■ ネットワークオーディオプレーヤーの操作

付属のリモコンは本機だけでなく、マランツ製ネットワークオーディオプレーヤーも操作できます。マランツ製ネットワークオーディオプレーヤーを操作するときは、リモートモード選択ボタン(REMOTE MODE NET)を押して、リモコンをネットワークオーディオプレーヤーの操作モードに切り替えます。

- リモートモード選択ボタン(REMOTE MODE NET)が約2秒間点灯します。

- ① 電源ボタン(POWER ϕ)
- ② リモートモード選択ボタン(REMOTE MODE NET)
- ③ スキップボタン(\lll 、 \ggg)
- ④ 停止ボタン(\blacksquare)
- ⑤ 入力ソース切り替えボタン(INPUT)
- ⑥ インフォメーションボタン(INFO)
- ⑦ トップメニューボタン(TOP MENU)
- ⑧ カーソルボタン(Δ 、 ∇ 、 \triangleleft 、 \triangleright)
- ⑨ お気に入りボタン(FAVORITES)
- ⑩ 数字ボタン(0~9、+10)
- ⑪ 明るさ調節ボタン(DIMMER)
- ⑫ ランダムボタン(RANDOM ∞)



- 13 一時停止ボタン(⏸)
- 14 再生ボタン(▶)
- 15 再生モード切り替えボタン(MODE)
- 16 エンターボタン(ENTER)
- 17 セットアップボタン(SETUP)
- 18 クリアボタン(CLEAR)
- 19 サーチボタン(SEARCH)
- 20 リピートボタン(REPEAT ↺)



リモコンの操作モードがネットワークオーディオプレーヤーのときも、アンプの操作ボタンでアンプを操作できます。

接続のしかた

■ 目次







スピーカーを接続する	20
再生機器を接続する	22
録音機器を接続する	23
デジタル音声出力端子付きの機器を接続する	24
パソコンまたは Mac と接続する	25
リモートコントロール端子付きの機器を接続する	26
電源コードを接続する	27

ご注意

- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
- 接続ケーブルは、電源コードと一緒に束ねないでください。雑音の原因になります。

■ 接続に使用するケーブル

接続する機器に合わせて、必要なケーブルを準備してください。

スピーカーケーブル	
オーディオケーブル	
リモート接続ケーブル	
光伝送ケーブル	
同軸デジタルケーブル	
USB ケーブル	

スピーカーを接続する

ご注意

- スピーカーを接続する前に、本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。
- スピーカーケーブルの芯線が、スピーカー端子からはみ出さないように接続してください。芯線がリアパネルやねじに接触したり、+側と-側が接触したりすると、保護回路が動作します。(「保護回路」(P.51 ページ))
- 通電中は、絶対にスピーカー端子に触れないでください。感電する場合があります。
- スピーカーは 4~8 Ω のインピーダンスのものをお使いください。

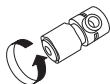
■ スピーカーケーブルを接続する

本機と接続するスピーカーの左チャンネル(L)、右チャンネル(R)、+ (赤)、- (白)をよく確認して、同じ極性を接続してください。

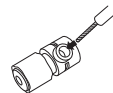
- 1 スピーカーケーブル先端の被覆を 10mm 程度はがし、芯線をしっかりよじるか、端末処理をおこなう。



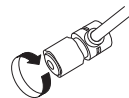
- 2 スピーカー端子を左に回してゆるめる。



- 3 スピーカーケーブルの芯線をスピーカー端子の根元に差し込む。



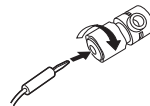
- 4 スピーカー端子を右に回して締める。



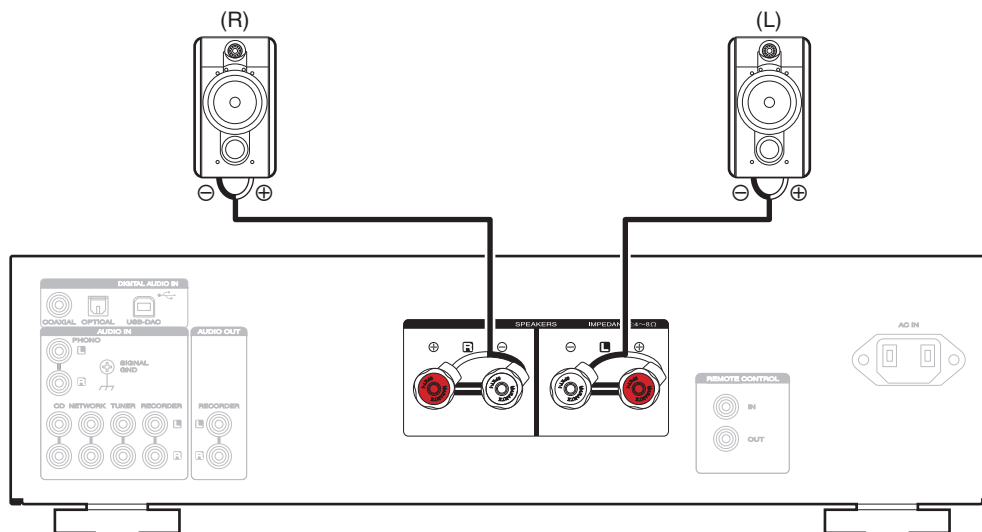
Y ラグ端子の場合



バナナプラグの場合

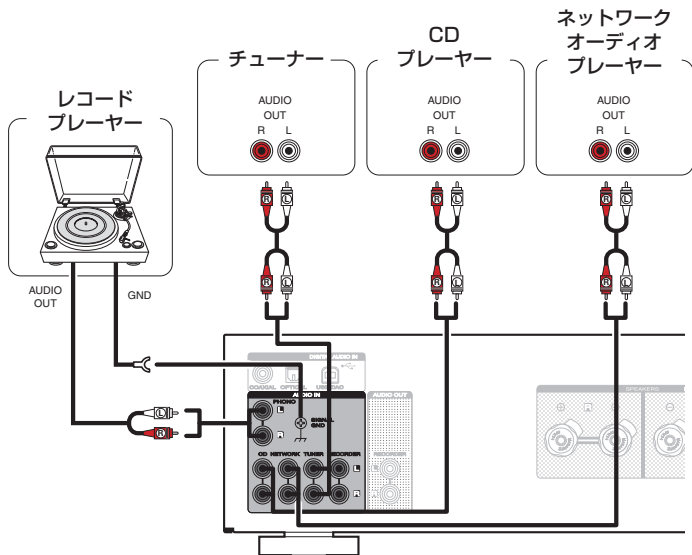


スピーカー接続



再生機器を接続する

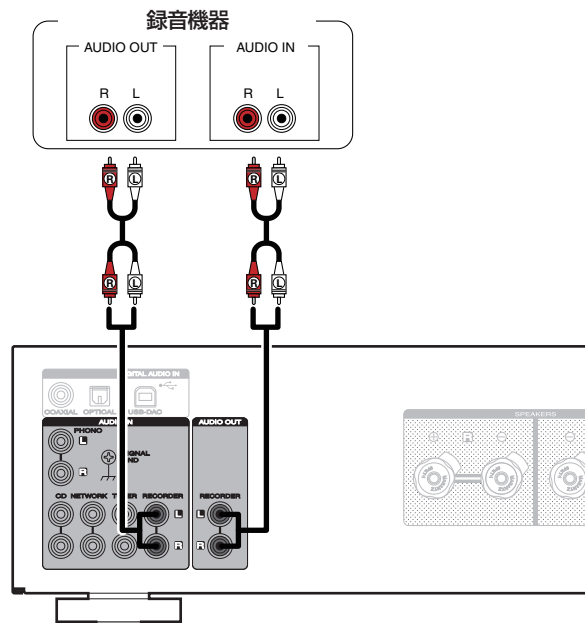
本機には、レコードプレーヤー、チューナー、CDプレーヤーおよびネットワークオーディオプレーヤーを接続できます。また、本機はMMカートリッジ付きのレコードプレーヤーに対応しています。MCカートリッジ付きのレコードプレーヤーを接続する場合は、別売りのMCヘッドアンプまたは昇圧トランスを使用してください。本機の入カソースを“PHONO”にし、レコードプレーヤーを接続せずに音量を上げると、“ブーン”という雑音が発生することがあります。



ご注意

本機のアース端子(SIGNAL GND)は、安全アースではありません。雑音が多いときに接続すると、雑音を低減できます。ただし、レコードプレーヤーによっては、アース線を接続すると逆に雑音が大きくなる場合があります。この場合は、アース線を接続する必要はありません。

録音機器を接続する

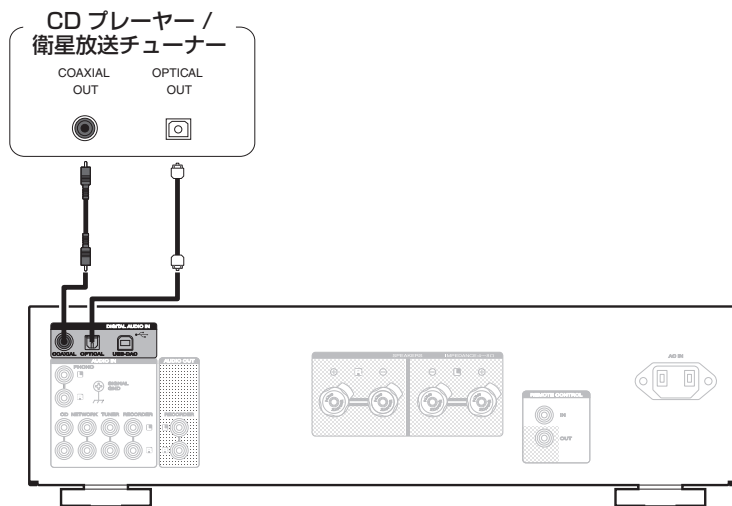


ご注意

レコーダー出力端子(AUDIO OUT RECORDER)にショートピンプラグを挿入しないでください。故障の原因になります。

デジタル音声出力端子付きの機器を接続する

本機にデジタル音声信号を入力し、本機の D/A コンバーターで D/A 変換をおこなって再生する接続です。(参照 32 ページ)

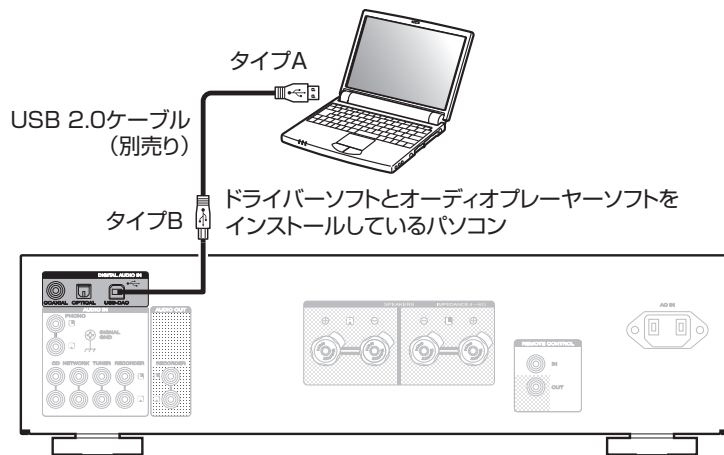


ご注意

- 本機に入力できるのは、サンプリング周波数が 32kHz、44.1kHz、48kHz、64kHz、88.2kHz、96kHz、176.4kHz、192kHz のリニア PCM 信号です。
- ドルビーデジタル、DTS、AAC などのリニア PCM 信号以外の信号は入力しないでください。雑音が発生し、スピーカーを破損する恐れがあります。

パソコンまたは Mac と接続する

本機のリアパネルの USB 端子(USB-DAC)とパソコンを USB ケーブル(別売り)で接続すると、パソコンの音楽データを本機の D/A コンバーターで再生できます。(P.32 ページ)



- ハイレゾリューション音源(DSD 信号や 192kHz / 24bit の PCM 信号)を再生するには、本機とパソコンを USB 接続する前にパソコンに専用ドライバーソフトをインストールしてください。(P.32 ページ)
- ドライバーソフトは当社ウェブサイトの PM7005 のページからダウンロードしてください。

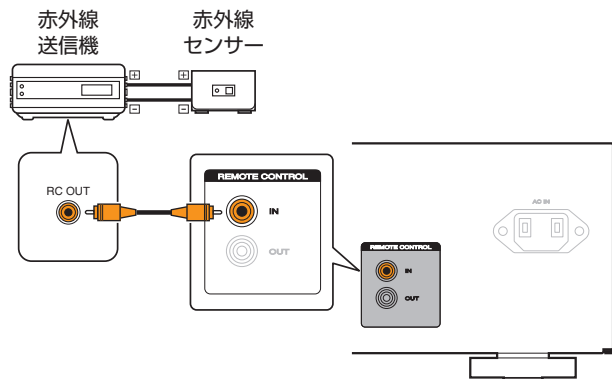
ご注意

パソコンとの接続には、3m 以下のケーブルをご使用ください。

リモートコントロール端子付きの機器を接続する

リモコンの操作をしやすくする

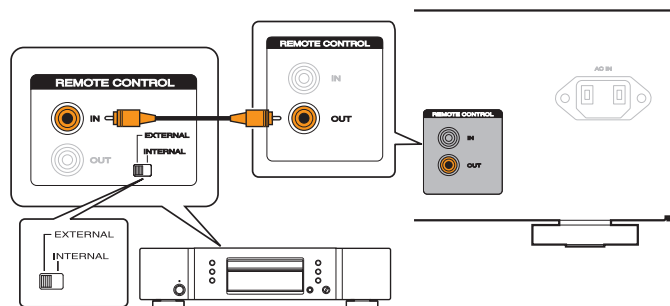
本機をリモコン信号が届きにくい場所(視聴位置の横や後ろなど)に設置しても、別売りのリモコンレシーバーユニットを本機に接続して使いやすい位置に設置することで、リモコンの操作がしやすくなります。



マランツ製オーディオ機器をリモート接続する

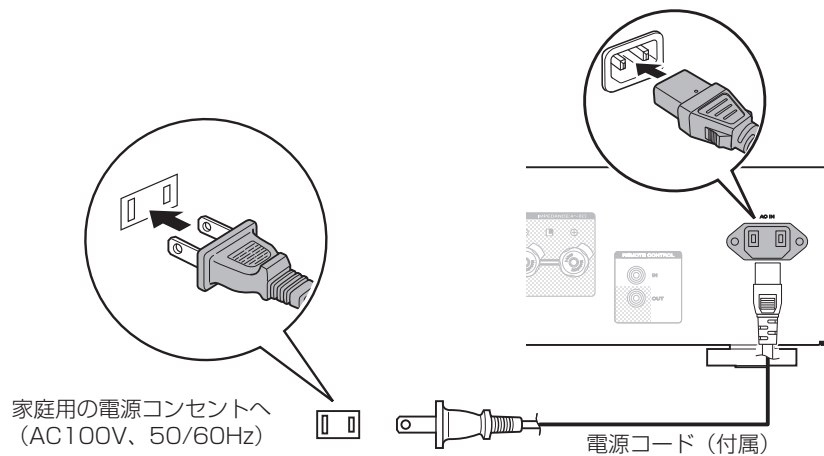
マランツ製オーディオ機器に付属しているリモート接続ケーブルを使用して REMOTE CONTROL IN/OUT 端子に機器を接続するだけでリモコン信号を転送できます。

この接続をおこなう場合は、本機と接続する機器の背面に装備されているリモートコントロールスイッチを“EXTERNAL”に設定してください。



電源コードを接続する

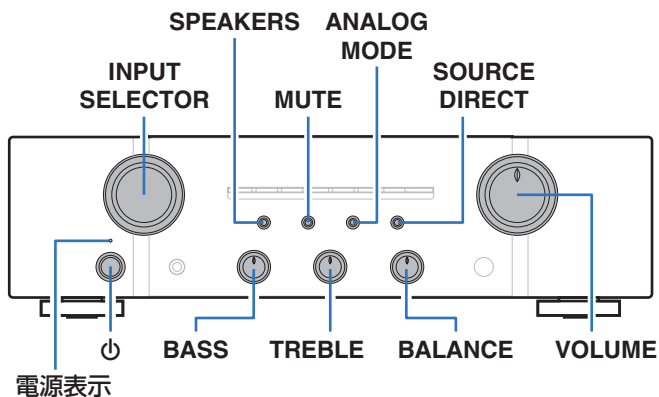
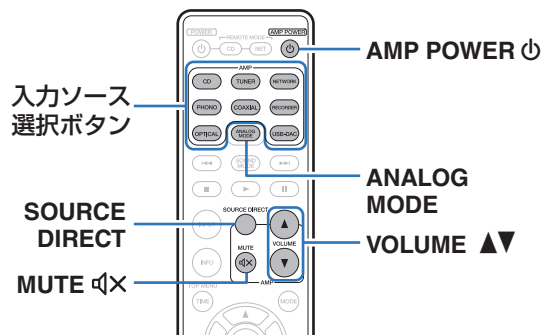
すべての接続が完了したら、電源プラグをコンセントに差し込みます。



再生のしかた

■ 目次

電源を入れる	29
スピーカー出力をオンにする	30
入力ソースを選ぶ	30
音量を調節する	30
一時的に音を消す(ミュート)	30
音質を調節する	30
CD を再生する	31
パソコンと接続して再生する(USB-DAC)	32
デジタル機器と接続して再生する(Coaxial/Optical)	39
録音する	39



電源を入れる

- 1 本体の **電源** を押して、電源を入れる。
 選択している入カソースの表示が点灯します。



- スタンバイ状態から再び電源を入れるときは、AMP POWER を押してください。
- スタンバイ状態のときに本体の INPUT SELECTOR を回しても、電源がオンになります。

ご注意

電源を入れる前に、本体の VOLUME を回して、音量を最小にしてください。

電源を切る

- 1 本体の **電源** を押して、電源を切る。
 点灯中のすべての表示が消灯します。

電源をスタンバイにする

- 1 リモコンの AMP POWER を押す。
 電源表示が赤色に点灯します。

スピーカー出力をオンにする

- 1 本体の **SPEAKERS** を押す。
SPEAKERS 表示が点灯します。



ヘッドホンをご使用になるときは、SPEAKERS を押して表示を消灯し、スピーカー端子からの音声出力をオフにしてください。

入力ソースを選ぶ

- 1 入力ソース切り替えボタンを押して、再生する入力ソースを選ぶ。
選択した入力ソースの表示が点灯します。



本体の INPUT SELECTOR を回しても、入力ソースを選択できます。

音量を調節する

- 1 **VOLUME ▲▼** を押して、音量を調節する。



本体の VOLUME を回しても、音量を調節できます。

一時的に音を消す(ミュートイング)

- 1 **MUTE ㊦** を押す。
ミュート表示が点灯します。



- ミュートを解除するときには、もう一度 **MUTE ㊦** を押してください。
- 本体の **MUTE** を押しても一時的に音を消すことができます。

音質を調節する

- 1 **SOURCE DIRECT** を押して、ソースダイレクトモードをオフにする。
ソースダイレクト表示が消灯します。
- 2 本体の **BASS**、**TREBLE** および **BALANCE** を回して、音質を調節する。



本体の **SOURCE DIRECT** を押しても、ソースダイレクトモードをオフにできません。

CDを再生する

ここでは、CD プレーヤーの再生のしかたを例に説明します。

- 1 本機の **電源** を押して、電源を入れる。
- 2 本機の **SPEAKER** を押して、スピーカー出力をオンにする。
SPEAKERS 表示が点灯します。
- 3 入力ソース切り替えボタン(CD)を押して、入力ソースを“CD”に切り替える。
入力表示の“CD”が点灯します。
- 4 CD プレーヤーを再生する。
- 5 **VOLUME ▲▼** を押して、音量を調節する。

■ ソースダイレクトモードで再生する

音声信号が音質調節回路(BASS、TREBLE、BALANCE)を通らないため、より原音に忠実な再生ができます。

- 1 **SOURCE DIRECT** を押して、ソースダイレクトモードをオンにする。
ソースダイレクト表示が点灯します。

■ アナログモードで再生する

アナログ入力ソース(Phono, CD, NETWORK, TUNER, RECORDER)を再生するときにアナログモードをオンにすると、デジタル入力回路の電源がオフになります。これによりアナログ信号回路はデジタル制御回路から発生するノイズの影響を受けずに高音質の音楽再生をお楽しみいただけます。

- 1 **ANALOG MODE** を押してアナログモードをオンにする。

ANALOG MODE 表示が点灯します。



- アナログモードがオンのときはデジタル入力(COAXIAL, OPTICAL, USB-DAC)のソースを選択できません。また、リモコンのデジタル入力ソースの入力ソース切り替えボタンを押すと、本機の ANALOG MODE 表示が点滅してデジタル入力ソースへの切り替えができないことをお知らせします。
- デジタル入力(COAXIAL, OPTICAL, USB-DAC)のソースの再生中にアナログモードをオンにすると自動的に入力ソースは CD に切り替わります。
- 本機の USB-DAC 入力端子にパソコンを接続しているときにアナログモードをオンにすると本機とパソコンの通信を切断します。再度アナログモードをオフにしても通信ができないときは、USB ケーブルの再接続またはパソコンのオーディオプレーヤーの再立ち上げをしてください。
- アナログモードを切り替えると、約 4 秒間ミュートします。

パソコンと接続して再生する (USB-DAC)

パソコンに保存している PCM 信号や DSD 信号の音楽ファイルを USB 接続で本機に入力すると、本機に搭載している D/A コンバーターで、高音質な音楽再生をお楽しみいただけます。

- 本機とパソコンを USB 接続する前にパソコンに専用ドライバーソフトをインストールしてください。
- Mac OS をご使用の場合は、ドライバーソフトのインストールは必要ありません。
- パソコンの再生プレーヤーには市販品またはダウンロード可能な好みのプレーヤーソフトをご使用ください。

■ パソコン(推奨システム)

OS

- Windows® Vista、Windows 7 および Windows 8
- Mac OS X 10.6.3 以降

USB

- USB 2.0: USB High speed/USB Audio Class Ver. 2.0

- DSD は、登録商標です。
- Microsoft、Windows Vista、Windows 7 と Windows 8 は、米国 Microsoft Corporation の米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。
- Apple、Macintosh、Mac OS は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。

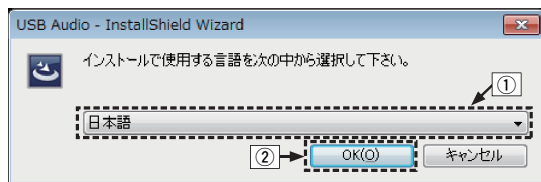
■ 専用ドライバーソフトのインストール (Windows OS のみ)

□ パソコンへドライバーソフトをインストールする方法

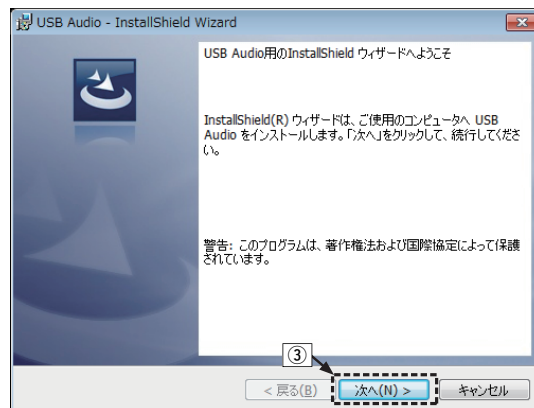
- 1 本機とパソコンの USB 接続を外す。**
 - 本機とパソコンを USB 接続しているとドライバーソフトを正しくインストールできません。
 - パソコンにドライバーソフトをインストールする前に、本機と USB 接続してパソコンを立ち上げた場合、USB 接続を外して、パソコンを再起動してください。
- 2 ご使用のパソコンに、当社ウェブサイト PM7005 のページの“ダウンロード”から専用ドライバーをダウンロードする。**
- 3 ダウンロードファイルを解凍し、ご使用のパソコンの Windows OS に合わせて 32bit 版または 64bit 版の exe ファイルを選び、ダブルクリックする。**

4 ドライバソフトをインストールする。

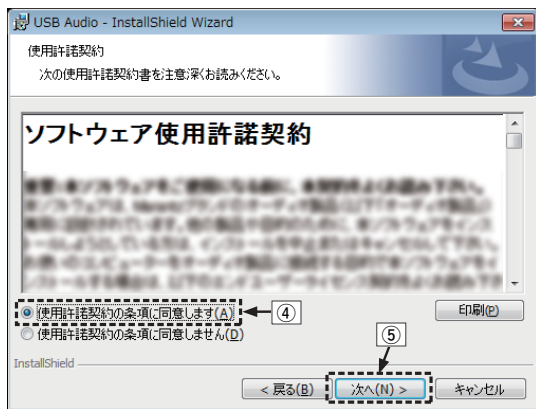
- ① インストール作業をおこなう言語を選ぶ。
- ② “OK(O)” をクリックする。



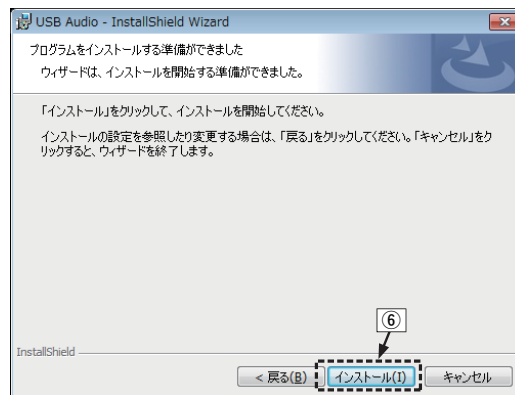
- ③ ウィザードメニューが表示されたら“次へ(N)” をクリックする。



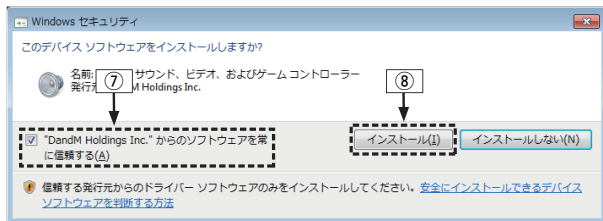
- ④ ソフトウェア使用許諾メニューを読み、“使用許諾契約の条項に同意します(A)”を選ぶ。
- ⑤ “次へ(N)”をクリックする。



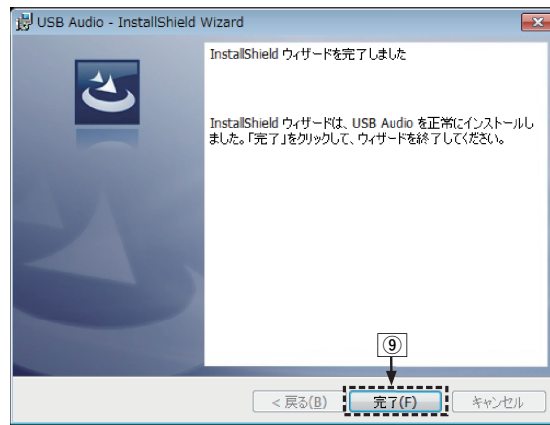
- ⑥ インストール開始ダイアログの“インストール(I)”をクリックする。
- インストールをはじめます。インストールが終了するまでパソコンの操作をしないでください。



- ⑦ Windows セキュリティダイアログの “DandM Holdings Inc.”からのソフトウェアを常に信頼する(A)”を選ぶ。
- ⑧ “インストール(I)” をクリックする。



- ⑨ インストール終了画面を表示したら “完了(F)” をクリックする。



- 5 本機の電源をオフにしたまま、本機とパソコンを USB ケーブル(別売り)で接続する。
- 接続のしかたは「パソコンまたは Mac と接続する」(P.25 ページ)をご覧ください。

6 POWER を押す。

- 本機の電源がオンになると、パソコンは自動的に本機を検出して接続をおこないます。

7 入カソース切り替えボタン(USB-DAC)を押して、入カソースを“USB-DAC”にする。

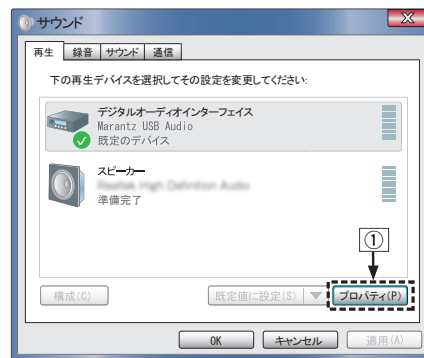
8 インストールしたドライバーを確認する。

- ① パソコン画面の“スタート”をクリックして、“コントロールパネル”をクリックする。
 - コントロールパネルの設定一覧を表示します。
- ② “サウンド”をクリックする。
 - サウンドメニュー画面を表示します。
- ③ “再生”タブの“デジタルオーディオインターフェース”に“既定のデバイス”のチェックマークがあることを確認する。
 - 他のデバイスにチェックマークがあるときは、“Marantz USB Audio”を選択してから“既定値に設定”をクリックしてください。

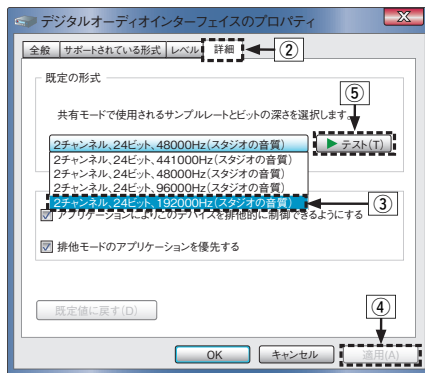
9 音声出力を確認する。

パソコンからテスト信号を出力して USB-DAC 機能の音声出力を確認します。

- ① サウンドメニュー画面の“デジタルオーディオインターフェース”を選び、“プロパティ”をクリックする。
 - デジタルオーディオインターフェースのプロパティ画面を表示します。



- ② “詳細” タブをクリックする。
- ③ D/A 変換をおこなうサンプリング周波数とビット数を選ぶ。
 - “2チャンネル、24ビット、192000 Hz(スタジオの音質)” に設定することをおすすめします。
- ④ “適用(A)” をクリックする。
- ⑤ “テスト(T)” をクリックする。
 - 本機からパソコンの音声が出力されることを確認します。



ご注意

- 専用ドライバーはパソコンと本機を USB 接続する前にインストールしてください。ドライバーのインストール前に本機とパソコンを接続すると正しく動作しません。
- パソコンのハードウェアおよびソフトウェアの構成によっては、動作しない場合があります。

■ 再生のしかた

あらかじめご使用のパソコンにお好みのプレーヤーソフトをインストールしてください。

本機のリアパネルの USB 端子(USB-DAC)にパソコンを接続してください。

接続のしかたは「パソコンまたは Mac と接続する」(P.25 ページ)をご覧ください。

1 入力ソース切り替えボタン(USB-DAC)を押して、入力ソースを“USB-DAC”にする。

入力表示の“USB-DAC”が点灯します。

2 パソコンの再生ソフトで再生をはじめると。

3 VOLUME ▲▼を押して、音量を調節する。

ご注意

本機が入力信号のサンプリング周波数を検出できないときは、USB-DAC の入力表示が点滅します。

■ 再生できるファイルについて

「D/A コンバーターについて」(P.51 ページ)をご覧ください。

ご注意

- 再生、停止などはパソコンで操作してください。本体のボタンおよびリモコンでは操作できません。
- パソコンでは、音量およびイコライザーの調節もできます。お好みの音量でお楽しみください。
- 本機が D/A コンバーターとして機能しているときは、パソコン本体のスピーカーから音声は出力されません。
- パソコンの再生ソフトを起動中に、本機とパソコンの接続を外すと、再生ソフトがフリーズすることがあります。必ず再生ソフトを終了してから接続を外してください。
- パソコン側で異常が発生したときは、USB ケーブルを抜いてパソコンを再起動してください。
- パソコンとの接続には、3m 以下のケーブルをご使用ください。

デジタル機器と接続して再生する (Coaxial/Optical)

- 1 デジタル機器を接続する。(P.24 ページ)
- 2 入力ソース切り替えボタン(COAXIALまたはOPTICAL)を押して、入力ソースを“COAXIAL”または“OPTICAL”にする。
- 3 本機に接続しているデジタル機器の再生をはじめめる。
本機が入力信号のサンプリング周波数を検出できないときは、COAXIAL または OPTICAL の入力表示が点滅します。
- 4 VOLUME ▲▼を押して、音量を調節する。

■ 再生できるファイルについて

「D/A コンバーターについて」(P.51 ページ)をご覧ください。

ご注意

- ドルビーデジタル、DTS、AAC などのリニア PCM 以外の信号は入力しないでください。雑音が発生し、スピーカーが破損する恐れがあります。
- CS 放送の A モードから B モードなど、サンプリング周波数が切り替わったときには、1～2 秒程度消音になり、音が途切れることがあります。

録音する

本機に入力した音声信号を、外部の録音機器に出力することができます。本機に接続した再生機器の音声録音する際、再生機器を本機に接続したまま録音できます。

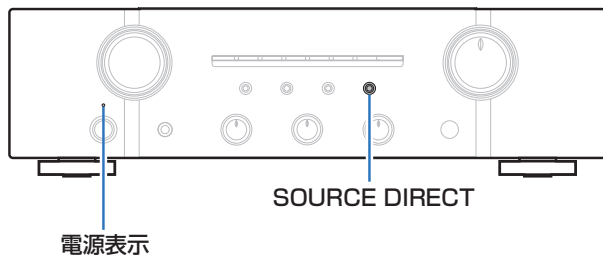
- 1 本体の **⏻** を押して、電源を入れる。
- 2 入力ソース切り替えボタンを押して、録音したい入力ソースに切り替える。
選択した入力ソースの表示が点灯します。
- 3 録音をはじめめる。
 - 操作のしかたは、録音機器の取扱説明書をご覧ください。

設定のしかた

オートスタンバイモードを設定する

音声の入力がない状態で本機を約 30 分間操作しないとき、自動的にスタンバイ状態になるように設定できます(オートスタンバイモード)。

お買い上げ時は、オートスタンバイモードを“オフ”に設定しています。



オートスタンバイモードをオフにする

- 1 SOURCE DIRECT を5秒以上押して、オートスタンバイモードをオフにする。
スタンバイ表示が 1 回点滅します。

オートスタンバイモードをオンにする

- 1 SOURCE DIRECT を5秒以上押して、オートスタンバイモードをオンにする。
電源表示が 3 回点滅します。

困ったときは

■ 目次

こんなときの解決方法

好みの音質に調節したい	42
原音に忠実な再生をしたい	42
本機のリモコンでマランツの CD プレーヤーやネットワークオーディオプレーヤーを操作したい	42
アナログ入力ソースをより良い音質でたのしみたい	42

故障かな？と思ったら

電源が入らない / 電源が切れる	44
リモコンで操作ができない	45
音がまったく出ない	46
希望する音が出ない	46
音がひずんだり、ノイズが入ったりする	47
パソコン内や Mac 内の音楽ファイルが再生できない	48

こんなときの解決方法

好みの音質に調節したい

- 低音調節つまみ(BASS)、高音調節つまみ(TREBLE)、バランス調節つまみ(BALANCE)で好みの音質に調節してください。(P.30 ページ)

原音に忠実な再生をしたい

- ソースダイレクトモードをオンに設定してください。(P.31 ページ)

本機のリモコンでマランツの CD プレーヤーやネットワークオーディオプレーヤーを操作したい

- リモコンの操作モードを切り替えてください。(P.15、17 ページ)
- CD プレーヤーまたはネットワークオーディオプレーヤーの取扱説明書もあわせてお読みください。

アナログ入力ソースをより良い音質でたのしみたい

- アナログモードをオンに設定してください。(P.31 ページ)

故障かな？と思ったら

1. 各接続は正しいですか
2. 取扱説明書に従って正しく操作していますか
3. スピーカーやプレーヤーは正しく動作していますか

本機が正しく動作しないときは、該当する症状に従ってチェックしてみてください。

なお、どの症状にも該当しない場合は本機の故障とも考えられますので、お買い上げの販売店にご相談ください。もし、お買い上げの販売店でもおわかりにならない場合は、当社のお客様ご相談センターまたはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。

目次

接続のしかた

再生のしかた

設定のしかた

困ったときは

付録

■ 電源が入らない / 電源が切れる

症状	原因 / 対策	関連ページ
電源が入らない。	<ul style="list-style-type: none"> コンセントへの電源プラグの差し込みを点検してください。 	27
電源が自動的に切れる。	<ul style="list-style-type: none"> オートスタンバイモードが設定されています。操作がない状態で約 30 分間経過すると、オートスタンバイモードが動作します。オートスタンバイモードを無効にするには、オートスタンバイモード中に SOURCE DIRECT ボタンを 5 秒以上押してください。 	40
電源が切れ、電源表示が約 0.5 秒間隔で、赤色に点滅している。	<ul style="list-style-type: none"> 機器内部の温度上昇により、保護回路がはたらいています。電源が切れている状態で、1 時間程度待ち、本機の温度が十分下がってから、電源を入れ直してください。 	51
	<ul style="list-style-type: none"> 本機を風通しの良い場所に設置し直してください。 	—
電源が切れ、電源表示が約 0.25 秒間隔で、赤色に点滅している。	<ul style="list-style-type: none"> スピーカーの接続を確認してください。スピーカーケーブルの芯線どうしが接触したり、芯線が端子から外れたりして、芯線が本機のリアパネルに接触したため、保護回路がはたらいている可能性があります。電源コードを抜き、芯線をしっかりとよじり直すか、端末処理をするなどしたあとで、接続し直してください。 	20
	<ul style="list-style-type: none"> 音量を下げ、電源を入れ直してください。 	29
電源を入れたときに、電源表示が約 0.25 秒間隔で赤色に点滅している。	<ul style="list-style-type: none"> 本機のアンプ回路が故障しています。電源コードを抜き、当社の修理相談窓口までご連絡ください。 	—

■ リモコンで操作ができない

症状	原因 / 対策	関連ページ
リモコンで操作ができない。	• 乾電池が消耗しています。新しい乾電池と交換してください。	6
	• リモコンは、本機から約 7m および 30° 以内の範囲で操作してください。	6
	• 本機とリモコンの間の障害物を取り除いてください。	—
	• 乾電池の ⊕ と ⊖ を正しくセットしてください。	6
	• 本機のリモコン受光部に強い光(直射日光、インバーター式蛍光灯の光など)があたっています。受光部に強い光があたらない場所に設置してください。	—
	• 3D 映像機器をご使用の場合、各ユニット間(テレビや 3D 視聴用メガネなど)の無線通信の影響によって本機のリモコンが効かなくなることがあります。その場合は、3D 通信の各ユニットの向きと距離を調節して、本機のリモコンの動作に影響がないことを確認してください。	—

■ 音がまったく出ない

症状	原因 / 対策	関連ページ
スピーカーから音が出ない。	• すべての機器の接続を確認してください。	19
	• 接続ケーブルを奥まで挿してください。	—
	• 入力端子と出力端子を間違えて接続していないか確認してください。	—
	• ケーブルが破損していないか確認してください。	—
	• スピーカーケーブルが正しく接続されていることを確認してください。ケーブルの芯線がスピーカー端子の金属部に接触していることを確認してください。	20
	• スピーカー端子をしっかり締めてください。また、スピーカー端子が緩んでいないか確認してください。	20
	• 適切な入力ソースが選択されていることを確認してください。	30
	• 主音量を適切な大きさに調節してください。	30
	• ミュート(消音)モードを解除してください。	30

■ 希望する音が出ない

症状	原因 / 対策	関連ページ
特定のスピーカーから音が出ない。	• スピーカーケーブルが正しく接続されていることを確認してください。	20
	• バランス調節つまみ(BALANCE)を調節してください。	30
ステレオ再生のときに、左右の音声が入れ替わっている。	• 左右のスピーカーが正しいスピーカー端子に接続されているか確認してください。	20

■ 音がひずんだり、ノイズが入ったりする

症状	原因 / 対策	関連ページ
レコード再生のときに、音がひずむ。	• 針圧を調節してください。	—
	• レコードの針先を確認してください。	—
	• カートリッジを交換してください。	—
レコード再生のときに、“ブーン”という雑音がスピーカーから出力される。	• レコードプレーヤーが正しく接続されていることを確認してください。	<u>22</u>
	• レコードプレーヤーの近くにテレビや AV 機器などがあると、再生音に影響を受ける場合があります。レコードプレーヤーをテレビや AV 機器などから離して設置してください。	—
レコード再生のときに音量を大きくすると、“ワーン”という雑音がスピーカーから出力される。(ハウリング現象)	• レコードプレーヤーとスピーカーを離して設置してください。	<u>22</u>
	• スピーカーの振動が床を通してプレーヤーに伝わる場合があります。スピーカーの振動をクッションなどで吸収させてください。	—
パソコンの曲を再生中に音が途切れる。	• パソコンの曲の再生中は、プレーヤーソフト以外のアプリケーションを起動しないでください。	—

■ パソコン内や Mac 内の音楽ファイルが再生できない

症状	原因 / 対策	関連ページ
パソコンまたは Mac で本機が認識されない。	• ご使用のパソコンまたは Mac の OS を確認してください。	32
	• ご使用のパソコンが Windows の場合は、専用ドライバーのインストールが必要です。	32
USB-DAC の入力表示が点滅する。	• 本機が対応していないフォーマットの音声信号を入力した場合は、USB-DAC の入力表示が点滅します。パソコンまたはプレーヤーソフトの設定を確認してください。	—
	• ご使用のパソコンが “Mac OS” の場合は、“Audio MIDI 設定” で、“USB High Speed Audio” のフォーマットが “192000.0Hz” 以下に設定されているか、確認してください。	—

保証と修理について

■ 保証書について

- この製品には保証書が添付されております。
保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの上、大切に保管してください。
- 保証期間はご購入日から 1 年間です。

■ 保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。
詳しくは保証書をご覧ください。

ご注意

保証書が添付されない場合は有料修理になりますので、ご注意ください。

■ 保証期間経過後の修理

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料修理致します。

■ 修理料金のしくみ

- 技術料・・・故障した製品を正常に修復するための料金です。
技術者の人件費・技術教育費・測定機器などの設備費・一般管理費などが含まれます。
- 部品代・・・修理に使用した部品代金です。
その他修理に付帯する部材などを含む場合もあります。
- 出張料・・・製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。
別途駐車料金をいただく場合があります。

■ 補修部品の保有期間

本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後 8 年です。

■ 修理を依頼されるとき

修理を依頼される前に

- 取扱説明書の「故障かな?と思ったら」の項目をご確認ください。
- 正しい操作をしていただかずに修理を依頼される場合がありますので、この取扱説明書をお読みいただき、お調べください。

修理を依頼されるとき

- 持ち込み修理対象製品の出張修理をご希望される場合は、別途出張料をご請求させていただくこととなりますので、あらかじめご了承ください。
- 修理を依頼されるための、梱包材は保存しておくことをおすすめします。

■ 依頼の際に連絡していただきたい内容

- お名前、ご住所、お電話番号
- 製品名……取扱説明書の表紙に表示しています。
- 製造番号……保証書と製品背面に表示しています。
- できるだけ詳しい故障または異常の内容

■ お客様の個人情報の保護について

- お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- この商品に添付されている保証書によって、保証書を発行している者(保証責任者)およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

付録

D/A コンバーターについて

■ 再生できるファイルの仕様

□ USB-DAC

	サンプリング周波数	ビット長
DSD (2 チャンネル)	2.8/5.6MHz	1 ビット
リニア PCM (2 チャンネル)	32/44.1/48/88.2/ 96/176.4/192kHz	16/24 ビット

□ Coaxial/Optical

	サンプリング周波数	ビット長
リニア PCM (2 チャンネル)	32/44.1/48/64/ 88.2/96/176.4/ 192kHz	16/24 ビット

用語の解説

スピーカーインピーダンス

交流抵抗値のことで Ω (オーム) という単位であらわします。
この値が小さいほど大きな電力が得られます。

ソースダイレクト

入力された音声信号を、音質調節回路 (BASS/TREBLE/
BALANCE) を通さずに出力するため、より原音に忠実な再生がお
こなえます。

保護回路

何らかの原因で過負荷や過電圧、高温状態などの異常が起きたと
きに、電源内部の部品が破損するのを防止する機能です。
本機では、異常発生時には電源表示が赤色に点滅し、スタンバイ状
態になります。

主な仕様

• 定格出力(20Hz~20kHz 両チャンネル同時駆動):	60W×2(8Ω 負荷) 80W×2(4Ω 負荷)
• 全高調波歪率(20Hz~20kHz 両チャンネル同時駆動、8Ω 負荷):	0.02%
• 出力帯域幅(8Ω 負荷、0.06%):	5Hz~60kHz
• 周波数特性(CD、1W、8Ω 負荷):	5Hz~100kHz ±3dB
• ダンピングファクター(8Ω 負荷、40Hz~20kHz):	100
• 入力感度/ 入力インピーダンス	
PHONO(MM):	2.0mV/47kΩ
CD、TUNER、NETWORK、RECORDER:	200mV/20kΩ
• PHONO 最大許容入力(1kHz) MM:	100mV
• RIAA 偏差(20Hz~20kHz):	±0.5dB
• S/N 比(IHF A ネットワーク、8Ω 負荷)	
PHONO(MM):	85dB(5mV 入力、1W 出力)
CD、TUNER、NETWORK、RECORDER:	104dB(2V 入力、定格出力)
• トーンコントロール	
BASS(50Hz):	±10dB
TREBLE(15kHz):	±10dB
• 電源:	AC100V、50/60Hz
• 消費電力:	170W
• スタンバイ時の消費電力:	0.2W

• デジタル入力信号フォーマット

フォーマット:

デジタルオーディオインターフェース(リニア PCM)

同軸入力:

0.5Vp-p / 75Ω

光入力:

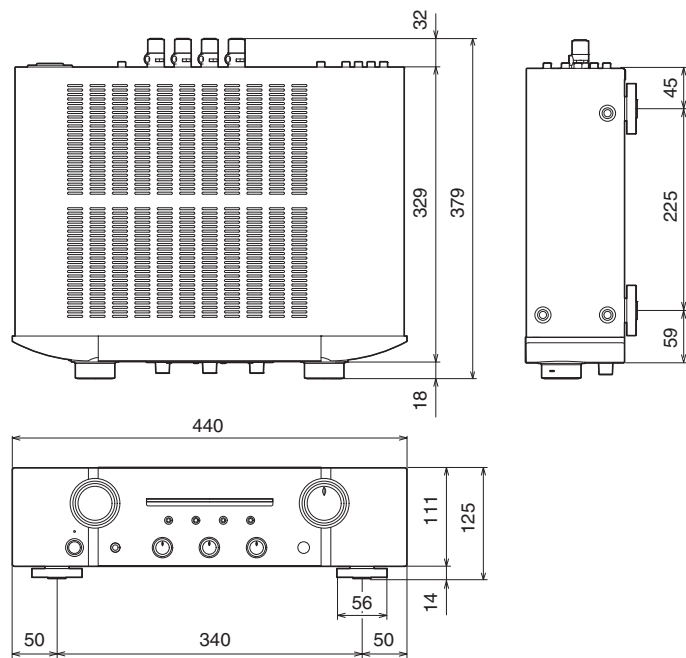
-27dBm 以上

波長:

660nm

仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

■ 寸法(単位:mm)



■ 質量:10.0kg

索引

🔊 B	
BALANCE	30
BASS	30
🔊 D	
D/A コンバーター	32
🔊 T	
TREBLE	30
🔊 U	
USB-DAC	32
🔊 お	
オートスタンバイモード	40
音質を調節する	30
音量を調節する	30
🔊 か	
乾電池の入れかた	6
🔊 け	
ケーブル	19

🔊 こ	
故障かな?と思ったら	43
こんなときの解決方法	42
🔊 さ	
再生機器を接続する	22
🔊 す	
スピーカーインピーダンス	51
スピーカーを接続する	20
🔊 そ	
ソースダイレクト	31, 51
🔊 て	
デジタルオーディオ機器を接続する ..	24
電源コードの接続	27
🔊 と	
ドライバーをインストールする	32
🔊 に	
入力ソースを選ぶ	30


🔊 は	
パソコンまたは Mac を接続する	25
🔊 ほ	
保護回路について	51
🔊 み	
ミュートイング	30
🔊 り	
リモートコントロール	26
リモコン	14
🔊 ろ	
録音機器を接続する	23

当社製品のご相談と修理についてのお問い合わせは、お買い上げ店または下記窓口にご連絡ください。

お客様相談センター

 0570 (666) 112


FAX : 044 (544) 3171

- 受付時間 9:30 ~ 17:30
(当社休日および祝日を除く、月~金曜日)
- 上記番号がご利用いただけない場合  03 (3570) 5138
〒210-8569 神奈川県川崎市川崎区日進町2番地1 D&Mビル
- メールでお問い合わせをいただくこともできます。
<http://marantz.jp/jp/html/contact.html>

* 電話番号・ファックス番号・URL は変更になる場合があります。

修理相談窓口

 0570 (666) 112

- 受付時間 9:30 ~ 12:00、13:00 ~ 17:30
(当社休日および祝日を除く、月~金曜日)
 - 上記番号がご利用いただけない場合  03 (3570) 5138
 - 故障・修理・サービス部品についてのお問い合わせ先（サービスセンター）については、次の当社ホームページでもご確認いただけます。
<http://marantz.jp/jp/html/service.html>
 - 修理品お持ち込み窓口
 - ・首都圏サービスセンター
〒252-0816 神奈川県藤沢市遠藤2010-16
FAX : 0466 (86) 9533
 - ・関西サービスセンター
〒573-0094 大阪府枚方市南中振3-2-7 三井倉庫ロジスティクスC棟3F
FAX : 072 (802) 3226
- * ディーアンドエムホールディングス本社では製品の修理を受け付けておりません。

marantz®

株式会社 ディーアンドエムホールディングス

〒210-8569

神奈川県川崎市川崎区日進町2番地1 D&Mビル

Printed in Japan 5411 11187 10AM